

(様式第 9)

東邦大病 第号 25-39 号  
平成 25 年 10 月 2 日

関東信越厚生局長 殿

学校法人 東邦大学  
理事長 炭山 嘉仁

東邦大学医療センター大森病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務  
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	119.25 人
--------	----------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	268人	170人	421.0人	看護補助者	27人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	3人	4人	6.6人	理学療法士	9人	臨床検査技師	100人
薬 剤 師	58人	0人	58.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	424人	0人	424.0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助 産 師	71人	0人	71.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看 護 師	549人	14人	557.8人	臨床工学技士	16人	医療社会事業従事者	5人
准 看 護 師	5人	1人	5.9人	栄 養 士	1人	その他の技術員	34人
歯科衛生士	5人	0人	5.0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	106人
管理栄養士	16人	0人	16.0人	診療放射線技師	50人	そ の 他 の 職 員	39人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	812.1人	5.7人	817.8人
1日当たり平均外来患者数	2399.2人	63.6人	2,462.8人
1日当たり平均調剤数	入院 1,351.9剤	外来 278.8剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名 Lactulose-水素呼気試験による小腸通過時間測定	取扱い患者数	25人
当該医療技術の概要: 小腸で吸収されないラフチェロースが盲腸に達すると、腸内細菌が発酵に利用し、水素ガスを産生する。 呼気中に出現するH <sub>2</sub> ガスの上昇する瞬間から、小腸通過時間を測定できる。 IBS症例を中心に行った。		
医療技術名 13C-マンニトール呼気試験による小腸細菌増殖の診断	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 小腸に細菌が増殖した場合、13C-マンニトールは13C-グルコースに分解されて吸収され、13CO <sub>2</sub> として、呼気中に排出される。慢性下痢の症例に行った。		
医療技術名 1-13C・2-13C・3-13C グルコース呼気試験	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: グルコースを構成する炭素原子の代謝が異なることを利用し、各原子をラベルした、13Cグルコース投与後の13CO <sub>2</sub> 排出パターンから、糖代謝の評価を行った。糖尿病治療前後で行った。		
医療技術名 陰イオン交換樹脂コレステチドによる慢性下痢の治療	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 高コレステロール血症の治療薬コレステチドは、小腸内で胆汁酸を吸着し、大腸の流入する胆汁酸を減少される。 そこで胆汁酸再吸収障害による下痢に著効する。保険外治療であるが、北海道から九州まで、多くの患者さんが来院した。		
医療技術名 内視鏡的膵管ステント留置術	取扱い患者数	35人
当該医療技術の概要: 主膵管狭窄を伴う慢性膵炎例		
医療技術名 総胆管大結石例に対するESWL治療	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要: 他の碎石具による破砕が不能な総胆管結石例に対して、ESWL治療を施行している。		
医療技術名 内視鏡的乳頭部腫瘍切除術	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: 十二指腸主乳頭部腺腫に対して内視鏡的切除を行っている。		
医療技術名 膵石症に対するESWL治療	取扱い患者数	36人
当該医療技術の概要: 主膵管内にある膵石症に対してESWLによる破砕療法を行っている。		
医療技術名 リザーバー肝動注化学療法	取扱い患者数	7人
当該医療技術の概要: 進行肝細胞癌患者に対して、動注ポンプを大腿鼠径皮下へ埋め込み、固有肝動脈へ開口する様に留置したカテーテルへ接続し、動注ポンプを通して24時間連続的に抗癌剤を注入する。		
医療技術名 経頸静脈的バルーン閉塞下逆行性静脈瘤閉塞術	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要: 胃静脈瘤等を形成する側副血行路を経静脈的に閉塞する。		
当該医療技術の概要: ソナゾイド造影超音波	取扱い患者数	864人
当該医療技術の概要: 超音波造影剤ソナゾイドを用いた消化器系腫瘍特に肝細胞癌の質的診断と腫瘍治療効果判定、びまん性肝疾患C肝炎・肝硬変の性状診断。		
当該医療技術の概要: 超音波機器を用いてのラジオ波(RFA)での肝腫瘍治療	取扱い患者数	136人
当該医療技術の概要: 超音波機器を用いてのラジオ波(RFA)での経皮的肝腫瘍の治療		
当該医療技術の概要: 腹腔-静脈シャント挿入術	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: 難治性腹水に対して腹腔-静脈シャントにより腹水のコントロールを行う。		
医療技術名 ロータブレータ	取扱い患者数	19人
当該医療技術の概要: 冠動脈病変を機械的に取り除くアテレクトミーに属する治療である。先端にダイヤモンドチップを散りばめたバーの高速回転により病変を破砕し末梢に洗い出す。透析患者など高度石灰化病変では本治療方法でのみ治療可能であり、施設基準により本邦においてロータブレータの施行可能な施設は限られている。		

医療技術名 電気生理学的検査	取扱い患者数 7人
当該医療技術の概要： 徐脈、上室頻拍、心室頻拍等の不整脈患者に対して、不整脈の起源、機序、薬物の有効性を評価する検査であり、不整脈診断と原因不明の失神に対しては、重要な検査である。	
医療技術名 加算的平均心電図	取扱い患者数 141人
当該医療技術の概要： 心房、心室の遅延電位を測定し、発作性心房細動、心室頻拍、心室細動などの重症不整脈を生ずる可能性を検出する検査法である。	
医療技術名 カテーテルアブレーション	取扱い患者数 161人
当該医療技術の概要： 経皮的に電極カテーテルを心腔内に挿入し、標的部位に固定して、体表に装着した対極板とのあいだで高周波通電を行い、頻拍の原因となる異常興奮発生部位、異常興奮回路を選択的に焼灼し頻拍を根治する治療法である。適応疾患としてはWPW症候群、心房細動、心室頻拍などである。	
医療技術名 血管内超音波 (IVUS)	取扱い患者数 330人
当該医療技術の概要： 冠動脈造影では評価し得ない冠動脈の三層構造およびプラークの性状が観察可能である。さらに冠動脈ステント植え込み後の拡張評価において遠隔期再狭窄を軽減する上で重要な所見が得られる。 本技術を用いることで、当施設における血行再建後の再狭窄率は他施設に比し低率となっている。	
医療技術名 冠動脈ステント	取扱い患者数 308人
当該医療技術の概要： 現在冠動脈インターベンション (PCI) の中心的治療方法であり、当施設においても本治療を第一選択とすることが多い。冠動脈内に筒状の金属を留置する方法であり、数種類のステントが臨床使用されている。	
医療技術名 血栓吸引療法	取扱い患者数 68人
当該医療技術の概要： 急性心筋梗塞の血行再建において通常のステント留置では血栓による末梢塞栓がまれでなく、予後不良となる因子のひとつである。血栓吸引療法は閉塞した病変においてその血栓を機械的に吸引し末梢塞栓を防ぐ方法である。 末梢塞栓が問題となる変性静脈グラフト病変の待機的治療において、極めて有効であり当施設でも第一選択としている。	
医療技術名 冠動脈MDCT	取扱い患者数 172人
当該医療技術の概要： 胸痛スクリーニング、バイパス術後患者様の冠動脈病変、重症度、術後開存しているか等のスクリーニングを行っている。	
医療技術名 心臓MRI	取扱い患者数 33人
当該医療技術の概要： 造影5-10分後のdelayed enhancement MRI (DEMRI) により心筋壊死範囲と領域を判定し、心臓viabilityを評価している。	
医療技術名 心電図同期心筋血流SPECT	取扱い患者数 433人
当該医療技術の概要： 心臓核医学検査において、心筋血流SPECT検査で心電図同期法を用いることで従来の心筋血流評価に加えて心機能を同時に評価することができ、診断精度が向上する。	
医療技術名 植込み型除細動器 (ICD)	取扱い患者数 13人
当該医療技術の概要： 心室細動や心室頻拍などの心室不整脈が原因で、心臓突然死が生じるのを防ぐのに使用される。 体内埋め込み式の装置である。心肺蘇生経験例のみならず、心臓突然死の危険性があると判断された患者においても使用される。	
医療技術名 心臓再同期療法 (CRT)・除細動機能付き心臓再同期療法 (CRT-D)	取扱い患者数 9人
当該医療技術の概要： 薬剤抵抗性の重症心不全患者に対して適応があり、心機能の改善目的で使用される。体内埋め込み式の装置である。 同時に不正脈性の心臓突然死をきたす危険性がある患者では、除細動機能付きの装置が使用される。	
医療技術名 関節リウマチ及び膠原病に対する免疫抑制薬の適正使用	取扱い患者数 500人
当該医療技術の概要： 種々の免疫抑制薬が関節リウマチ及び全身性エリテマトーデスなどの膠原病に対して使用されているが、安全性を十分に考慮した適性使用を行った。	
医療技術名 関節リウマチ及びベーチェット病に対する生物学的製剤の適正使用	取扱い患者数 200人
当該医療技術の概要： TNF阻害薬などの生物学的製剤が、関節リウマチやベーチェット病に使用されているが、安全性を十分に考慮した適正使用を行った	

医療技術名	三次元合成画像を用いた手術シミュレーション	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要： MRI、CT、SPECT、DSAを組み合わせた三次元合成画像を作成し、骨切離、脳のリラクトを行い、シミュレーションを行う。			
医療技術名	脳血管内外科手術	取扱い患者数	100人
当該医療技術の概要： 脳動脈瘤、脳動静脈奇形あるいは硬膜動静脈瘻に対して、コイルなどを使用し、血管内閉塞術を行う。			
医療技術名	脳機能モニタリング	取扱い患者数	60人
当該医療技術の概要： 術中に脳の運動機能・言語機能・脳幹機能をモニタリングすることにより、術後の神経欠落症状を軽減させ得る			
医療技術名	未熟児脳室内出血後水頭症に対する待期的外科療法	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要： 未熟児脳室内出血後水頭症に対して、V-Pシャント術までにミニチュアCSFリザーボアを留置し、定期的に髄液排除を行い、児の生長を待って、V-Pシャント術を行う、もしくは、手術の回避を検討し得る。			
医療技術名	多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要： 通常の治療に抵抗性を有する難治性を有する難治性皮膚潰瘍に対し、患者本人から30～60mlの末梢血を抗凝固剤共存下に採血し遠心分離用試験管に注入後、遠心分離し自己多血小板血漿を分取し、多血小板血漿を患部(潰瘍部位)の大きさに応じた用量で塗布することで、良好な治療成績が得られる。			
医療技術名	ケロイド・肥厚性瘢痕に対する治療	取扱い患者数	200人
当該医療技術の概要： ケロイド・肥厚性瘢痕に対し、部位、性状に応じて、切除手術、トラニラスト内服、トリアムシロン局注などの組み合わせ療法を行い良好な成績を得ている。			
医療技術名	色素性疾患に対する治療	取扱い患者数	150人
当該医療技術の概要： 外傷、熱傷後の色素沈着症、色素脱に対し、レーザー、削皮術、植皮術、軟膏療法等の組み合わせにより良好な治療成果を上げている。			
医療技術名	骨膜弁/HAP複合移植による頭蓋顎顔面の再建	取扱い患者数	0人
当該医療技術の概要： 外傷、悪性腫瘍摘出後の頭蓋顎顔面領域における骨欠損に対し、肋骨骨膜付広背筋弁および他の血管柄付骨膜弁を挙し、人工骨(ハイドロキシアパタイト)を被覆し、骨膜弁・HAP複合体を作成、移植を行い良好な治療成果を上げている。			
医療技術名	実物大臓器立体モデルによる手術計画	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要： 先天性疾患や外傷、悪性腫瘍切除等の手術などによる頭蓋顎顔面領域の骨の変形や、欠損は、多くが複雑な形状を呈している。形状を実物大立体モデル(模型)により手術前に把握し、手術計画をたて、術後の形状をシミュレーションすることにより、よりの確で精度の高い手術が可能となる。			
医療技術名	遊離・有茎動脈皮弁術	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要： 頭蓋顎顔面領域や、躯幹、四肢軟部悪性腫瘍切除後などの広範囲組織欠損に対し、マイクロサージャリーを用い、複合組織皮弁移植による再建を行っている。			
医療技術名	ナビゲーションシステムによる頭蓋顎顔面骨の再建	取扱い患者数	24人
当該医療技術の概要： 先天性疾患や外傷、悪性腫瘍切除等の手術などによる頭蓋顎顔面領域の骨の変形や、欠損は多くが複雑な形状を呈している。術中に再建後の形状をシミュレーションし、整復位置の確認などを行うことにより、よりの確で精度の高い手術が可能となる。			
医療技術名	成長ホルモン治療	取扱い患者数	25人
当該医療技術の概要： 成長ホルモン分泌不全性低身長、ターナー症候群、SGA性低身長、軟骨異栄養症における成長障害に対し、成長ホルモン治療を行っている。			
医療技術名	先天性甲状腺機能低下症の診断と治療	取扱い患者数	35人
当該医療技術の概要： 新生児マス・スクリーニングにて高TSH血症を指摘された新生児などにおいて、治療の必要性の有無を検討すると共に、幼児期に休薬後、治療継続の必要性を再検討している。			

医療技術名 肺高血圧に対するプロスタサイクリン(PGI <sub>2</sub> )(フローラン)持続静脈療法	取扱い患者数 48人
当該医療技術の概要: 原発性および二次性肺高血圧に対するプロスタサイクリン(フローラン)持続静注療法の開始ならびに在宅管理の指導を行い、全国症例の約1/4を観察中であり、良好な成績を得ている。特に若年例・小児例では全国の80%以上の症例を治療している。	
医療技術名 先天性心疾患の胎児心エコー検査	取扱い患者数 50人
当該医療技術の概要: 「先進医療」として指定され当院が国内で2番目に認可された。胎児に心疾患の疑いがある場合、ご家族の希望により心疾患の出生前診断を行いあわせて治療方針や予後の説明までを行なう。	
医療技術名 けいれん性疾患に対する長時間脳波記録、及び解析	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: けいれん性疾患の発作型や発作頻度の確認のため、または偽けいれんとの鑑別のために、携帯型長時間脳波記録を行い、脳波所見と発作型の分析を行っている。	
医療技術名 小児難治性白血病に対する集学的治療	取扱い患者数 12人
当該医療技術の概要: 難治性白血病に対し、組織形態学的、免疫学的、分子生物学的診断を行い、専門の教育されたスタッフによって、無菌室、無菌ベッド等の施設を用いた診療が可能である。	
医療技術名 小児期心疾患のカテーテル検査術	取扱い患者数 120人
当該医療技術の概要: 先天性心疾患と後天性心疾患(巨大冠動脈瘤を伴う川崎病、原発性肺高血圧など)に対し、心血管造影、選択的冠動脈造影などを行なった。適応と緊急度に応じて夜間や週末などにも対応可能である。	
医療技術名 小児期心疾患のカテーテル治療	取扱い患者数 40人
当該医療技術の概要: 動脈管開存や肺動脈弁狭窄などの先天性心疾患及び術後末梢性肺動脈狭窄などの症例に対してカテーテル治療を行ない手術を回避し得た。	
医療技術名 肺高血圧症等に対するNO吸入療法	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 原発性肺高血圧症、Eisenmenger症候群に代表される先天性心疾患に伴う肺高血圧症や重症肺炎に伴うARDS等の患児に対し間欠的ないし持続的にNO(一酸化窒素)を吸入させ、良好な結果を得ている。	
医療技術名 新生児期重症心疾患の内科的管理及び外科的治療	取扱い患者数 80人
当該医療技術の概要: 完全大血管転位、大動脈縮窄など新生児期早期に重症心不全を呈したチアノーゼを呈する症例(先天性心疾患)に対して、抗心不全療法、PGE <sub>2</sub> 、授与、人工換気などを施行。診断確定後外科的治療(心内修復術、姑見術)を施行してきた。	
医療技術名 慢性腎不全小児の成長の評価と治療	取扱い患者数 23人
当該医療技術の概要: 著しい、成長・発達障害をきたす小児の慢性腎不全に対し、透析中、腎移植後を含めて評価し、適応例にはホルモン療法を行っている。	
医療技術名 顆粒球減少症に対するG-CSF療法	取扱い患者数 3人
当該医療技術の概要: 顆粒球減少症の児に対し、G-CSFを投与した。	
医療技術名 新生児重症心疾患の内科的管理及び外科的治療	取扱い患者数 15人
当該医療技術の概要: チアノーゼまたは重症心不全を呈する新生児早期の先天性心疾患に対するPGE <sub>1</sub> 製剤などによる内科的治療及び新生児早期の開心術、短絡術を随時施行している。	
医療技術名 新生児持続性肺高血圧症における一酸化窒素吸入療法	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要: 新生児持続性肺高血圧症に対し、微量のNOガスを投与した。	
医療技術名 肺サーファクタント補充療法	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要: 未熟児呼吸窮迫症候群に対し、人工肺サーファクタント補充療法を行った。	
医療技術名 気管支肺異形成症に対する高終末呼吸換気療法	取扱い患者数 6人
当該医療技術の概要: 気管支肺異形成症に対し無気肺を予防しつつ長期に人工換気療法を行った。	

医療技術名	未熟児動脈管開存症に対する薬物的閉鎖療法	取扱い患者数	12人
当該医療技術の概要: 未熟児動脈管開存症に対し、心エコー検査で評価した後、インドメタシン静注療法で閉鎖させた。			
医療技術名	臍動脈カテーテルによる循環の管理	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 臍動脈にカテーテルを挿入し、動脈圧を常時モニターする。			
医療技術名	新生児重症外科的疾患の治療並びに管理	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: 先天的奇形に基づく、新生児の消化器、呼吸器、体壁など			
医療技術名	重症新生児呼吸障害に対する治療	取扱い患者数	8人
当該医療技術の概要: 高頻度振動呼吸(HFO)により、重症新生児呼吸障害を治療			
医療技術名	未熟児貧血に対するエリスロポエチン投与	取扱い患者数	25人
当該医療技術の概要: 未熟児貧血に対し、エリスロポエチンを投与し、輸血の頻度			
医療技術名	水頭症に対するリザーバ留置術	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: 出血後水頭症に対し、リザーバ留置による治療を行った。			
医療技術名	超低出生体重児の管理	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 超低出生児の全身管理を行った。			
医療技術名	中心静脈カテーテル(臍静脈カテーテルを含む)による高カロリー輸液	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 当該医療技術の概要:中心静脈カテーテル(臍静脈カテーテルを含む)を挿入し、高カロリー輸液を実施することにより、低栄養状態を改善させた。			
医療技術名	未熟児網膜症に対するレーザーによる光凝固療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 重症の未熟児網膜症に対し、眼科と協力してレーザーによる光凝固療法を実施して、失明を予防した。			
医療技術名	重症新生児仮死例に対する脳低温療法	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要: 重症仮死例に早期より脳低温療法を行い予後の改善をはかる。			
医療技術名	胎児(心臓)超音波検査	取扱い患者数	110人
当該医療技術の概要: 胎児心臓超音波検査などにより 正確な胎内診断に基づく出生後の管理につなげた。			
医療技術名	低酸素吸入療法(窒素ガス)	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 肺高血流疾患の術前管理として当該療法により、肺うっ血の進行をコントロールし、術前状態を最適化した。			
医療技術名	重症感染症に対するγグロブリン療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 重症の感染症や早発黄疸に対する交換輸血で生命予後の改善につなげた。			
医療技術名	重症感染症や早発黄疸に対する交換輸血	取扱い患者数	0人
当該医療技術の概要: 重症感染症例に当該治療により予後の改善をはかる。			
医療技術名	経胎盤的胎児不整脈治療	取扱い患者数	1人
当該医療技術の概要: 厚生省認定の当該技術により重症胎児不整脈(頻脈性及び徐脈性)を胎内で治療し、その予後改善につなげた。			
医療技術名	眼内レンズ支持部強膜内固定法	取扱い患者数	5人
当該医療技術の概要: 眼内レンズ二字挿における支持部強膜内固定法は、縫着用レンズを使用せず、煩雑な縫合を要しない術式で、小切開創からレンズが挿入可能である。			
医療技術名	未熟児網膜症に対するレーザーによる光凝固療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 重症の未熟児網膜症に対し、眼科と協力してレーザーによる光凝固療法を実施して、失明を予防した。 ラベクレクトミーへの変換、ジヌソトミーの併用、白内障手術との同時手術に有用である。			



医療技術名	強膜トンネル付きトラベクトミー	取扱い患者数	13人
当該医療技術の概要： 難治性緑内障に対し、従来のトラベクトミーの短所を改良し、術後流出路の閉塞を起さなくし、眼圧コントロールに良好な成績を得ている。			
医療技術名	二重強膜弁法トラベクトミー	取扱い患者数	6人
当該医療技術の概要： 従来のトラベクトミーの困難性を二重強膜弁を作成しアプローチすることにより、本法を簡単にし、さらにトラベクトミーへの変換、ジヌソミーの併用、白内障手術との同時手術に有用である。			
医療技術名	スーチャー・カナリゼーション(suture canalization)	取扱い患者数	4人
当該医療技術の概要： 従来のトラベクトミー、トラベクトロミーの術中および術後の合併症をより少なくした方法で、超音波水晶体摘出術、眼内レンズ挿入術との三重手術に応用し良好な成績を得ている。			
医療技術名	黄斑円孔に対する内境界膜剥離除去術	取扱い患者数	17人
当該医療技術の概要： 黄斑円孔に対して硝子体手術のみでなく、内境界膜を剥離除去することにより円孔の閉鎖率の向上を図る。			
医療技術名	光線力学療法	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要： 光感受性物質をあらかじめ血管内に取り込ませ、それに特定して感受性の高い波長の光を照射し、活性化し、組織を阻害し、新生血管を阻害し正常組織に対する障害をおさえる。その結果失明のリスクを減らす。			
医療技術名	極小切開白内障手術	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要： 外科手術は常に切開のダウンサイジング化が目標であると考えた。創に2mm以下の白内障術を目標に現在2.3～2.4mmにて手術を行なっている。			
医療技術名	総合周産期センターにおける早産予防の高度管理	取扱い患者数	136人
当該医療技術の概要： 総合周産期センター、母体胎児集中治療室において、厳重なモニター管理の下、妊娠継続を計っている。胎児娩出時期を周産期と検討し決定している。			
医療技術名	生殖補助医療における非侵襲的卵巣刺激法	取扱い患者数	630人
当該医療技術の概要： 従来にの卵巣刺激法と比較して、自然周期卵巣低刺激方法を施行することにより、身体的・経済的負担を軽減し、良好胚を獲得することができる。			
医療技術名	多胎妊娠の集学的治療法	取扱い患者数	58人
当該医療技術の概要： 双胎、品胎に対し、総合周産期センターにおいて、厳重な管理の下、早産、合併症の発症予防に周産期管理を行っている。特に、品胎に対しては、新生児科医、麻酔科医と連携をとり娩出時期を決定している。			
医療技術名	妊娠高血圧症候群妊婦の管理	取扱い患者数	46人
当該医療技術の概要： 食事及び薬物療法により、妊娠高血圧症をコントロールし、母児共に最適な時期での分娩時期を検討している。また、内科とも連携し、より詳細な母体の全身状態を評価している。			
医療技術名	腹腔鏡下手術	取扱い患者数	407人
当該医療技術の概要： 侵襲の少ない手術として、腹腔鏡下手術が年々増加している。腹腔鏡下に卵巣腫瘍、子宮筋腫核出術、子宮全摘術、子宮外妊娠の手術が施行されており、良好な成績をあげている。			
医療技術名	TESE-ICSI MD-TESE-ICSI	取扱い患者数	81人
当該医療技術の概要： リプロダクションセンター婦人科部門と泌尿器科部門と協力し、無精子症症例に対して精巣組織より回収した、精巣精子を用いた顕微受精を行い、従来自らの遺伝情報を継承した児を得ることのできなかつた重症男性不妊症症例でも児を得ることが出来るようになった。			
医療技術名	コルポスコピー検査	取扱い患者数	301人
当該医療技術の概要： コルポスコピーを用い、子宮頸部異型上皮、子宮頸癌の早期発見・早期治療に有用な検査を行っている。			
医療技術名	婦人科悪性腫瘍手術	取扱い患者数	86人
当該医療技術の概要： 子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、その他の婦人科悪性腫瘍に対して、外科的処置をメインに治療を行っている。			

医療技術名 婦人科悪性腫瘍に対する化学療法	取扱い患者数 104人
当該医療技術の概要： 子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、その他の婦人科悪性腫瘍に対して、各腫瘍・組織型に応じた抗癌剤を用いての化学療法を行い、良好な成績を得ている。	
医療技術名 外来化学治療	取扱い患者数 10人
当該医療技術の概要： 主に卵巣癌術後再発患者さんに対して、QOLを重視し外来での化学療法を行っている。	
医療技術名 遺伝外来における遺伝相談および出生前診断	取扱い患者数 18人
当該医療技術の概要： 遺伝性疾患保因者、家族らの遺伝相談、出生前診断および周産期管理	
医療技術名 卵巣予備能力解析	取扱い患者数 210人
当該医療技術の概要： 従来のFHSやE2による評価に加え、抗ミュラー管ホルモン(AMH)を細くすることにより、加齢に伴い低下する卵巣機能を詳細に評価し、妊孕能評価に応用している。	
医療技術名 卵巣機能低下症例に対する体外受精・顕微授精-胚移植	取扱い患者数 299人
当該医療技術の概要： 社会背景の変化に伴い、高齢化している拳児希望患者(生理的卵巣機能低下症例)の体外受精や顕微授精に際しての採卵において、確実に卵を獲得するための網羅的解析・評価を実施している。	
医療技術名 染色体分析・出生前診断・遺伝相談	取扱い患者数 116人
当該医療技術の概要： 羊水染色体検査を実施し、その結果の評価と説明を行い、さらに希望症例に対して遺伝相談を実施している。	
医療技術名 絨毛染色体分析・遺伝相談	取扱い患者数 12人
当該医療技術の概要： 流産胎児の染色体分析を実施し、流産と染色体異常の因果関係等について解析・評価を行い、流産の原因検索を行っている。	
医療技術名 家庭用品健康被害モニター	取扱い患者数 25人
当該医療技術の概要： 種々の家庭用品による皮膚障害(刺激性、光毒性、アレルギー性、光アレルギー性、接触蕁麻疹等)例を報告するとともに、パッチテスト、光パッチテスト、皮内反応、プリックテスト等の検査を施行し、原因物質を確定し、再発の防止に役立っている。	
医療技術名 家庭用品臨床検査試験	取扱い患者数 60人
当該医療技術の概要： 家庭用品に用いる化学物質(抗菌剤、防腐剤等)の安全性をパッチテスト、光パッチテストを施行して調べている。	
医療技術名 重症自己免疫水疱症の集学的治療	取扱い患者数 3人
当該医療技術の概要： 重症天疱瘡、類天疱瘡に対し、ステロイド大量療法が効果不十分である場合に、免疫抑制療法、大量免疫グロブリン静注療法を行い効果をあげている。	
医療技術名 パッチテスト	取扱い患者数 228人
当該医療技術の概要： 当科では、スタンダードシリーズによる抗原検索のみならず、成分分析に基づく成分パッチテストを施行し、より詳細な原因特定を行い、患者さんのみならず社会にアレルゲンの動向を追究することによる貢献している。	
医療技術名 先天性表皮水疱症の超微細形態学的病型診断	取扱い患者数 5人
当該医療技術の概要： 先天性表皮水疱症は、本邦で1,000人程度の患者数の稀な疾患である。生検皮膚を用いたモノクローナル抗体による蛋白発現の検索および電子顕微鏡による超微細形態観察による病型診断を行っている。	
医療技術名 顕微鏡下精巣内精子採取術	取扱い患者数 75人
当該医療技術の概要： 通常の精巣内精子採取術でも精子を採取出来ない無精子症患者に対する最終的手術。	
医療技術名 逆行性射精に対する膀胱内精子回収術	取扱い患者数 6人
当該医療技術の概要： DMや、後腹膜腔手術後の逆行性射精に対し、膀胱内に射精された精子を回収する方法。	
医療技術名 陰茎弯曲症形成手術	取扱い患者数 48人
当該医療技術の概要： 先天性陰茎弯曲症に対するプリケーション法 ペロニー病に対する静脈移植法	

医療技術名	腹腔鏡下前立腺腫瘍(悪性)摘出術	取扱い患者数	42人
当該医療技術の概要: 開放手術でなければ施行が困難とされていた前立腺全摘手術に対して、都内では7番目の施設認定を受け、より入院期間を短くして施行している。			
医療技術名	体外循環を含む心臓血管外科手術における麻酔管理	取扱い患者数	237人
当該医療技術の概要: 対外循環ならびに低体温法を用いた心臓血管外科手術において、循環モニターならびに薬物療法は通常の麻酔管理と異なる。			
医療技術名	分離肺換気を擁する開胸・胸腔鏡下手術における麻酔管理	取扱い患者数	271人
当該医療技術の概要: 呼吸器外科の手術においては、胸腔鏡下手術が普及しつつあり、分離肺換気という特殊な麻酔管理を要する。			
医療技術名	新生児手術における麻酔管理	取扱い患者数	27人
当該医療技術の概要: 生後28日未満の新生児時期に、手術を要する病態は極めて重篤であり、麻酔管理上、特殊なモニタリングと薬物管理を要する。			
医療技術名	急性期痛管理	取扱い患者数	3,500人
当該医療技術の概要: 手術における創痛は、不快であるとともに、呼吸循環系の合併症に関連するため、周術期リスクを高める。しかし、鎮痛薬の一般的な投与方法では十分な鎮痛効果を得られないとともに、副作用のリスクが否めない。そこで、特殊なポンプ(PCAポンプ)を用いた特殊な鎮痛方法が必要である。			
医療技術名	内視鏡下鼻内手術	取扱い患者数	100人
当該医療技術の概要: 副鼻腔炎に対し、内視鏡下にて手術を施行する。			
医療技術名	3D-CTによる中耳耳小骨病変の画像診断	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要: 慢性中耳炎の手術前後に3D-CTで、中耳病変の立体的確証を行い手術成績を向上させる。			
医療技術名	耳科手術への硬性内視鏡の導入	取扱い患者数	70人
当該医療技術の概要: 外耳道から内視鏡を挿入して中耳内を詳細に観察して、内耳や顔面神経を損傷することのない安全な耳科手術をめざす。			
医療技術名	ナビゲーション システムを使用する副鼻腔手術	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: 解剖学的にアプローチが困難な副鼻腔手術に内視鏡とナビゲーションを併用した安全で確実な手術			
医療技術名	乳幼児の聴覚スクリーニング	取扱い患者数	50人
当該医療技術の概要: 乳幼児の難聴の早期発見と言語指導のためのスクリーニング			
医療技術名	音声改善手術への人工材料の開発	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 甲状軟骨形成手術へのチタン材料の導入			
医療技術名	家族性乳癌スクリーニング	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: BRCA1/2遺伝子を調べ、乳癌の遺伝性素因を調べる。			
医療技術名	乳房再建	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: 工期的エクспанダーによる乳房再建。			
医療技術名	心身症のバイオフィードバック療法	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 片頭痛、緊張型頭痛、痙攣性斜頸、書痙等、主として神経筋肉系の心身症で薬物療法では効果が不十分なケースは、現状では決め手となる治療が少ない。 当院では、これらのケースにバイオフィードバック療法を行い成果をあげる。			
医療技術名	経食道心臓超音波検査(テポテ中含む)	取扱い患者数	341人
当該医療技術の概要: 先天性心疾患、弁膜症、人工弁置換術後、左心耳内血栓など通常の経胸壁エコー検査では、詳細な情報が得られない場合、経食道的アプローチは有用となる。			

医療技術名	睡眠潜時反復測定法(MSLT)	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: 客観的な日中の過度の眠気測定、特にナルコレプシーの補助診断のため、脳波記録を2時間ごとに繰り返して行い、眠りにつくまでの時間とそれに伴う臨床症状を記録する。			
医療技術名	腹部大動脈ステントグラフト内挿術	取扱い患者数	17人
当該医療技術の概要: 基礎疾患や開腹手術の既往のため、従来の開腹手術による人工血管移植手術ではリスクが高い症例に対し、高規格手術室(準ハイブリッド手術室)にて腹部大動脈ステントグラフト内挿術を行う。			
医療技術名	オフポンプ冠動脈バイパス手術	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: 超高齢者、低心機能、担癌状態、重度基礎疾患を有する虚血性心疾患症例に対し、人工心肺を用いず、心拍動下で冠動脈バイパス手術を行う。			
医療技術名	複雑心奇形に対する低侵襲外科手術	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 重度心不全状態の複雑心奇形症例に対し、小切開および充填量が極めて少ない人工心肺装置を用いて生体侵襲を低減し、手術成績の向上を図っている。			
医療技術名	N-アセチルシステイン吸入療法	取扱い患者数	30人
当該医療技術の概要: 難治性疾患である、肺線維症の進展防止のため、ムコフィリン吸入を行う療法。			
医療技術名	ARDSに対するPMX吸着療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 重症ARDS急性期においてPMX吸着療法を行う事により疾患の改善を図る方法			
医療技術名	チェーン・ストークス呼吸に対するASV(adaptive servo ventilation)	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: 心不全患者に合併するチェーン・ストークス呼吸に対して呼吸異常に連動した呼吸補助をすることにより呼吸の安定化を図る方法。			
医療技術名	肺腺癌に対する分子標的療法	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: 肺腺癌に対する一般化学療法が無効あるいは副作用のため施行困難症例に対して、EGFRを測定し効果を予測した上で、合併症に十分注意しながら投与調整を行う方法。			
医療技術名	COPDに対する呼吸リハビリテーション	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: COPDに対して薬物療法では不十分な症例に対して、呼吸困難改善・QOL向上を目的とした上下肢、呼吸筋力訓練などを総合的に行っていく方法。			
医療技術名	胸郭性拘束性障害に対するNPPV療法	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: 様々な先天的・後天的疾患による高二酸化炭素血症を伴う、慢性呼吸不全患者に対し、CO2モニターを使用しながら適切なNPPV療法を導入する方法。			
医療技術名	持続血糖測定	取扱い患者数	20人
当該医療技術の概要: 皮下持続血糖測定器を用いて72時間連続の血糖変動を確認し、治療に反映させる。			
医療技術名	持続皮下インスリン注射(CSII)	取扱い患者数	10人
当該医療技術の概要: ポンプを使用する持続皮下インスリン注射器を用い、安定した血糖管理を得る。 特に、糖尿病性ケトアシドーシスや高血糖効浸透圧症候群といった糖尿病の緊急性の高い合併症の治療の際に有用。			
医療技術名	副腎カテサンプリング	取扱い患者数	36人
当該医療技術の概要: 原発性アルドステロン症の局在診断に用いる検査。			
医療技術名	副甲状腺ビタミンD及びエタノール注入療法	取扱い患者数	3人
当該医療技術の概要: 長期透析合併症のひとつである2次性副甲状腺機能亢進症に対する治療として施行。			
医療技術名	小児(特に低体重・低年齢児)に対する腎移植	取扱い患者数	9人
当該医療技術の概要: 体重が10kgに満たない、又は年齢が5歳以下の末期腎不全小児の治療として腎移植を施行。			
医療技術名	ABO式血液型不適合者間腎移植	取扱い患者数	2人
当該医療技術の概要: レシピエントの血中の抗A抗体、抗B抗体を除去し、抗リンパ球抗体を併用し厳重な免疫抑制療法を行う事により、従来不可能であった血液型不適合ドナーからの腎移植を施行。			

医療技術名 HighRiskな原疾患を持つ患者への腎移植	取扱い患者数 7人
<p>当該医療技術の概要：          巣状糸球体硬化症は移植腎の原疾患が移植腎への再発が問題である。下部尿路奇形を伴った、原疾患とする場合、術前より尿路変更や膀胱拡大術が必要とされ管理は容易ではない。          小児の下大静脈欠損例では移植腎静脈を吻合する静脈に多くの工夫が要求される。          その他、各種原疾患に応じた、高度な腎移植を行っている。</p>	
医療技術名 第2次・第3次腎移植	取扱い患者数 1人
<p>当該医療技術の概要：          何らかの理由で一次移植腎の機能が喪失した患者への2次・3次移植は、抗HLA抗体の形成などにより、免疫学的にリスクが高い上に、長期免疫抑制剤投与のため合併症の発生率も高い。</p>	
医療技術名 内シャントのインターベンション治療	取扱い患者数 160人
<p>当該医療技術の概要：          従来手術でしか再建できなかった血液透析のバスキュラーアクセスを、インターベンション治療を選択することで、内シャント温存できることが多くなる。特に血管に乏しい患者には有用な技術である。</p>	
医療技術名 がん周術期における口腔機能管理	取扱い患者数 350人
<p>当該医療技術の概要：          がん手術を受ける患者の口腔機能を管理(咀嚼・嚥下・口腔感染源)することで、術中術後合併症を予防し、患者の離床、回復を促進している。</p>	
医療技術名 顎変形症の手術	取扱い患者数 3人
<p>当該医療技術の概要：          顎変形症手術のうち、下顎枝矢状分割法(SSRO)は術前後の顎関節偏位を極力少なくなるのが求められる。当科で開発した顎関節Repositioning法は、専用の手術器械をSSROと共通化して手術時間の短縮を図るとともに、骨に対する余分な孔開けを廃止、出血量の削減と安全性の向上、かつ正確なRepositioningを実現したもので、従来の術式に比し明らかに良好な結果を得ている。</p>	
医療技術名 出血性素因の口腔施術	取扱い患者数 200人
<p>当該医療技術の概要：          抗血栓凝固療法下の患者における外科手術では、抗凝固剤の中断されることが多いが、独自の止血法により投薬を中断することなく手術を実施している。ほとんどの症例で後出血をみず、投薬の中断による原疾患への影響、再発や増悪のリスクを回避している。この止血法はまた、血小板や凝固因子系に異常をきたす疾患において輸血量削減に貢献している。</p>	
医療技術名 Critical care を要する患者の口腔施術	取扱い患者数 150人
<p>当該医療技術の概要：          呼吸循環モニター下に、全身状態の低下した患者、及び循環器系合併症を有する患者で安全な医療を提供している。</p>	
医療技術名 口腔癌に対する集学的治療	取扱い患者数 20人
<p>当該医療技術の概要：          進展範囲および病期別に、化学・放射線・手術療法のレジメンを定め、根治性と機能温存を最大限実現するためにマイクロサージャリー、各種インプラント、有茎・遊離自家組織移植の技術を動員して良好な治療成績をあげている。</p>	
医療技術名 睡眠時無呼吸症候群の口腔装具による治療	取扱い患者数 20人
<p>当該医療技術の概要：          閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対し、当科で独自に開発した下顎位の移動量調節型 Prosthetic mandibular advancement(東邦式PMA)は、顎関節や咀嚼筋群への副作用を減じ、治療継続におけるコンプライアンスを向上、有効率は90%以上を得ている。</p>	
医療技術名 舌接触補助床による摂食嚥下障害の治療	取扱い患者数 3人
<p>当該医療技術の概要：          摂食嚥下障害における舌接触補助床(特定の形態を付与した口蓋床)を調製・装着することにより、舌背と口蓋接触を助け、嚥下運動の補助・反射の促進を図る。これにより頭頸部領域の術後機能障害や、中枢性の嚥下障害等の患者において効果を発揮している。</p>	
医療技術名 内視鏡視下椎間板切除術	取扱い患者数 35人
<p>当該医療技術の概要：          腰椎椎間板ヘルニア症例に対して、低侵襲手術をめざし、内視鏡視下にヘルニア腫瘍の摘出を行っている。</p>	
医療技術名 脊椎固定術	取扱い患者数 80人
<p>当該医療技術の概要：          脊椎の変形が不安定性に対して、ケージとスクリューロッドを用いて脊椎を固定し、術前症状の改善を図っている。</p>	

医療技術名 顕微鏡下、椎間板ヘルニア摘出術	取扱い患者数 15人
当該医療技術の概要： 腰椎椎間板ヘルニア症例に対して、低侵襲化をめざし、顕微鏡視下にヘルニア腫瘤の摘出を行っている。	
医療技術名 コンピュータナビゲーションシステムの使用	取扱い患者数 20人
当該医療技術の概要： 脊椎インストレーション手術時に個々に最も適したスクリューインプラトの設置を行うためにコンピューター計測をもとにスクリュー刺入を正確に行うためにナビゲーションシステムを使用している。	
医療技術名 自己血回収、輸血	取扱い患者数 310人
当該医療技術の概要： 輸血をすることが予測される患者に対して、感染症の予防、輸血量削減を目的に手術中より自己血回収装置を使用している。人工関節置換術後のドレーン血も自己血回収装置を使用し回収しているが、有用な方法である。	
医療技術名 自己血輸血	取扱い患者数 420人
当該医療技術の概要： 保存血輸血による副作用を予防する目的で、輸血が必要である予定手術の患者に対して、あらかじめ術前に自己血を貯留し、術後保存血輸血を行わず、自己血のみを行っている。	
医療技術名 人工関節置換術	取扱い患者数 300人
当該医療技術の概要： 膝、股、肩、足、肘関節の変形性変化による疼痛、可動域制限などに対して、QOLの向上を目的として人工関節置換術を行い良好な成績を得ている。	
医療技術名 関節リウマチに対する生物学的製剤治療	取扱い患者数 120人
当該医療技術の概要： 関節リウマチの関節炎には炎症性サイトカイン(IL-1,IL-6,TNF- $\alpha$ 72など)が大きくかかわっていることが知られている。近年、関節リウマチの治療法として、これらの炎症性サイトカインに対する生物学的製剤が臨床応用されている。従来の抗リウマチ薬に抵抗性の関節リウマチ患者に対して生物学的製剤を用い治療している。	
医療技術名 Knee CAS による術前計画	取扱い患者数 19人
当該医療技術の概要： 人工膝関節置換術における術前計画を施行。現行までの方法では2次元の計測であったが、CT・立体X-Pにより更に詳細な且つ綿密な術前計画が行えるようになった。	
医療技術名 悪性骨・軟部腫瘍広汎切除術	取扱い患者数 10人
当該医療技術の概要： 悪性骨・軟部腫瘍に対する広汎手術及び機能再建手術を行なっている。	
医療技術名 PCPSの臨床応用の拡大	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要： 重症肺血栓塞栓症、心肺停止後の循環呼吸不全は早急に対応することが予後を決定する。このような疾患に対して循環呼吸不全に対する補助としてPCPSを臨床応用している。	
医療技術名 急性肺障害に対するCHDF療法	取扱い患者数 15人
当該医療技術の概要： 敗血症、アレルギー性肺炎、重症肺炎などに伴う呼吸不全に対しては根本的な原因に対する治療が必要であるが、呼吸不全の病態を増悪する humoral mediator や endtoxine などの吸着、除去を行いながら水分管理、腎不全管理を行えるCHDFを導入している。	
医療技術名 重症心不全患者に対する治療	取扱い患者数 30人
当該医療技術の概要： 重症心不全患者に対し、人工呼吸管理をはじめ大動脈バルーンポンピングと併用し、新しい心不全薬を組み合わせた治療を行っている。	
医療技術名 特殊急性中毒に対する治療	取扱い患者数 10人
当該医療機関の概要： 一般中毒はもとより、自家製の青酸中毒キット、アセトアミノファン中毒キットを常備し、中毒物値をモニターしながら治療法を選択し、特殊な急性中毒に対処している。	
医療技術名 重症肺炎患者に対する持続血液濾過透析、およびエンドトキシン吸着による治療	取扱い患者数 8人
当該医療技術の概要： 重症肺炎患者では血中サイトカイン、エンドトキシン除去を目的に持続血液濾過透析、エンドトキシン吸着を行い、他の全身管理と併用して行っている。	

医療技術名 心肺機能停止例に対する蘇生術後の集中治療	取扱い患者数 25人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>東京消防庁のホットライン要請による病院前心肺停止例を24時間体制で受け入れ、二次救命処置による蘇生術を行い心拍再開例については引続き集中治療を行い完全社会復帰を目標に行っている。低体温療法も適応によって導入している。</p>	
医療技術名 化学発光抗体免疫測定法(CLEIA)を用いたIL6の測定	取扱い患者数 80人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>Intuloikin の測定は、今までのところキットが高価なこともあり、実際のSIRS等の診断や抗炎症治療の指標となり得なかったが、迅速な測定可能となり臨床にその場で生かすことが可能になった。IL6の血清濃度をモニターしながらCHDF、ステロイド等の療法を選択している。</p>	
医療技術名 早期経腸栄養	取扱い患者数 100人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>各疾患に対して、その病態において、適切な経腸栄養を早期から開始している開始時期は入室24時間以内を目標にしている。迅速な測定可能となり臨床にその場で生かすことが可能になった。IL6の血清濃度をモニターしながらCHDF、ステロイド等の療法を選択している。</p>	
医療技術名 PMCT	取扱い患者数 5人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>心肺停止後、蘇生を一時するが、その死因について確定するために、死亡確定後家族等の希望により、造影CT等を施行する。死因検討が可能である。</p>	
医療技術名 無交叉・O型濃厚血投与	取扱い患者数 6人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>外傷や血液型に対する不規則 抗体出現等で出血性ショック患者には無交叉でO型濃厚血投与を施行する。</p>	
医療技術名 簡易的脳波測定	取扱い患者数 5人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>意識障害あるいは痙攣重積患者の診断、および治療効果判定においては脳波測定が必要であるが、現状では脳波室およびポータブル脳波は夜間および時間外では施行できない。そこで簡易的に行えるシステムを導入している。</p>	
医療技術名 心肺停止症例以外の重症脳損傷症例に対する体温管理	取扱い患者数 10人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>心肺停止以外の重症脳損傷症例に対して低体温療法の有効性はエビデンスとしては証明されていない。しかし、脳圧効果作用など明らかな脳保護効果があり、脳血流測定などの評価とあわせて集中治療として体温管理を行っている。</p>	
医療技術名 重症脳損傷患者に対する病態評価と治療効果判定のための脳血流測定	取扱い患者数 15人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>重症脳損傷患者においては、脳血流障害により脳にダメージが加わることが知られている。このため、脳血流評価を行いながら重症脳損傷患者に対して治療を行うのは理にかなっているが、いまだ簡易的なモニタリング機器はない。当施設ではXe-CTにより脳血流を画像所見とともに評価している。</p>	
医療技術名 強度変調放射線治療	取扱い患者数 10人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>逆方向治療計画(インバースプラン)に基づき、空間的、時間的に不均一な放射線強度を持つ照射ビームを多方向から照射することにより、病巣部に最適な線量分布を得る放射線治療法である。</p>	
医療技術名 気道狭窄に対するステント療法	取扱い患者数 23人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>気管・気管支の腫瘍性あるいは尖症性狭窄に対する内視鏡下ステント療法です。</p>	
医療技術名 COPD合併肺癌に対する手術療法	取扱い患者数 16人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>一般に積極的治療対象とならないCOPD合併肺癌に対し、肺切除術を安定に行っている。自己血を貯留し、術後保存血輸血を行わず、自己血のみを行っている。</p>	
医療技術名 膵癌(切除不能)におけるワクチン療法	取扱い患者数 2人
<p>当該医療技術の概要:</p> <p>切除不能進行膵臓癌に対する免疫療法の有効性を調べる多施設共同研究。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>膵臓癌の腫瘍抗原ワクチンであるWT1ペプチドワクチンに抗癌剤ゲムシタピンを併用する治療</li> <li>抗癌剤ゲムシタピン単独治療とを比較し、ワクチンの効果を正確に判断する臨床試験</li> </ol>	

医療技術名 腹腔鏡下肝切除と腹腔鏡下脾切除術	取扱い患者数 30人
<p>当該医療技術の概要：</p> <p>腹腔鏡下肝切除術を国内で初めて試み、その普及の先頭に立ってきた。</p> <p>2年前に新たな治療法として本手術は保険収載に至り、肝がんを中心に、転移性肝がんや良性肝腫瘍に対して積極的に腹腔鏡下肝切除術を取り入れ、低侵襲手術としての評価を得ています。</p> <p>また、肝臓とともに最も難易度の高い、脾臓に対しても腹腔鏡下手術を導入しております。</p>	
医療技術名 進行直腸癌に対する腹腔鏡を使用した内肛門括約筋切除を伴う自然肛門温存術	取扱い患者数 10人
<p>当該医療技術の概要：</p> <p>進行直腸癌に対して人工肛門を回避すべく、究極の肛門温存術式として内肛門括約筋切除を伴う自然肛門温存術が導入され、肛門温存の可能性が高まってきた。一般に、本術式は開腹で施行されるが、当院では2006年から進行癌に対して低侵襲で体に優しい腹腔鏡下での手術に積極的に取り組んでいる。</p>	
医療技術名 進行・再発食道癌に対するワクチン治療	取扱い患者数 5人
<p>当該医療技術の概要：</p> <p>食道癌に高発現する特異的腫瘍抗原に対するペプチドワクチン治療臨床試験</p>	
医療技術名 進行・再発食道癌に対する免疫細胞治療	取扱い患者数 5人
<p>当該医療技術の概要：</p> <p><math>\alpha</math> <math>\beta</math> T細胞を用いた免疫治療の臨床試験</p>	

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他があれば、前年度の実績を記入すること。



(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数 (人)	疾患名	取扱患者数 (人)
・ベーチェット病	46	・膿疱性乾癬	2
・多発性硬化症	30	・広範脊柱管狭窄症	6
・重症筋無力症	31	・原発性胆汁性肝硬変	31
・全身性エリテマトーデス	213	・重症急性膵炎	15
・スモン	1	・特発性大腿骨頭壊死症	33
・再生不良性貧血	21	・混合性結合組織病	25
・サルコイドーシス	32	・原発性免疫不全症候群	5
・筋萎縮性側索硬化症	22	・特発性間質性肺炎	52
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	154	・網膜色素変性症	16
・特発性血小板減少性紫斑病	42	・プリオン病	0
・結節性動脈周囲炎	35	・肺動脈性肺高血圧症	39
・潰瘍性大腸炎	163	・神経線維腫症	4
・大動脈炎症候群	13	・亜急性硬化性全脳炎	0
・ビュルガー病	7	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1
・天疱瘡	9	・慢性血栓性肺高血圧症	5
・脊髄小脳変性症	21	・ライソゾーム病	0
・クローン病	57	・副腎白質ジストロフィー	0
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
・悪性関節リウマチ	23	・脊髄性筋萎縮症	0
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	64	・球脊髄性筋萎縮症	0
・アミロイドーシス	2	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2
・後縦靭帯骨化症	37	・肥大型心筋症	7
・ハンチントン病	0	・拘束型心筋症	1
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	19	・ミトコンドリア病	1
・ウェゲナー肉芽腫症	4	・リンパ管筋腫症(LAM)	1
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	63	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	11	・黄色靭帯骨化症	0
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	7	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	41

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



## (様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
糖尿病患者のエンパワーメント向上への医療者及び家族サポートの要因に関する研究【分担】	坪井 康次	心療内科	300	委託 厚生労働省
脳死ドナーにおける多臓器摘出に関する教育プログラム【分担】	相川 厚	腎センター	100	補助 厚生労働省
移植医療の社会的基盤に関する研究	相川 厚	腎センター	350	補助 厚生労働省
免疫アレルギー疾患予防・治療研究に係る企画及び評価の方向性の策定に関する研究	宍戸 清一郎	腎センター	3,500	補助 厚生労働省
超小型ミニプタのIPS細胞作製による慢性心不全治療モデル開発	小林 秀行	泌尿器科	2,000	補助 (社) 日本泌尿器科学会
幹細胞研究を主体とした男性不妊症の解明	小林 秀行	泌尿器科	1,100	補助 (社) 日本泌尿器科学会
厚生労働科学研究、難治性疾患克服研究事業【分担】	黒岩 実	小児外科	100	補助 厚生労働省
稀少難治性皮膚疾患克服のための生体試料収集に関する研究	石河 晃	皮膚科	300	補助 厚生労働省
「周産期医療に関する専門的スタッフの養成」プログラム出生前介入可能な周産期医療人材プラン-地域連携・女性医師支援を視野に入れて-	与田 仁志	新生児科	8,000	補助 文部科学省
低蛋白質ミルク摂取の栄養学的意義に関する研究	与田 仁志	新生児科	1,600	委託 (財) 糧食研
動脈硬化病変進行・大動脈瘤増大のメカニズムと歯周病疾患の関与	杉野 圭史	呼吸器内科	2,210	補助 厚生労働省
Xenon吸入下Dual Energy 肺換気CTを用いた気腫合併肺線維症の検討	杉野 圭史	呼吸器内科	2,210	補助 厚生労働省
2型糖尿病治療のアドヒアランスに影響するウェルビーイング、DQOLの関連因子の検討	弘世 貴久	糖尿病・代謝・内分泌科	1,690	補助 厚生労働省
解剖学的統計モデルを用いた顔のCG表現【分担】	丸山 優	形成外科	700	補助 文部科学省
創傷治癒における骨髄細胞(Fibrocyte)の関与とその発現異常の解明	丸山 優	形成外科	800	補助 文部科学省
膠原病諸疾患におけるアディポカインネットワークの解明	川合 眞一	膠原病科	1,500	補助 文部科学省
医薬品の国際共同開発及び臨床データ共有の推進に向けた東アジアにおける民族的要因に関する研究	川合 眞一	膠原病科	3,800	補助 厚生労働省
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発【分担】	遠藤 平仁	膠原病科	800	補助 厚生労働省
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究【分担】	遠藤 平仁	膠原病科	1,000	補助 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究業、地域流行型真菌症の疫学調査、診断治療法の開発に関する研究	渋谷 和俊	病理診断科	2,000	補助 厚生労働省
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究業、真菌感染症の病態解明に基づく検査・治療法の確立と国内診断・治療ネットワークの構築に関する研究	渋谷 和俊	病理診断科	1,600	補助 厚生労働省
感染症・免疫難病の先進医療技術開発	渋谷 和俊	病理診断科	2,000	補助 文部科学省
慢性炎症疾患の再生医学を応用した革新的予防法・治療法創成の拠点形成	渋谷 和俊	病理診断科	1,000	補助 文部科学省
炎症性サイトカインとしてのレプチンの作用機序に関する研究	楠 夏子	病理診断科	1,600	補助 文部科学省
ステロイド骨粗鬆症に対するテリパラチド投与による血清可溶性RANKL、OPGに関する臨床研究	金子 開知	病理診断科	800	補助 公益社団法人骨粗鬆症財団
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	佐地 勉	小児科	500	補助 厚生労働省
小児の免疫・アレルギー疾患の発症・重症化の機序と治療法についての研究	佐地 勉	小児科	1,000	補助 国立成育医療研究センター
重粒子線がん治療臨床研究【分担】	高木 啓吾	呼吸器外科	100	補助(独)放射線医学総合研究所
人工血管感染機序に関する研究	渡邊 善則	心臓血管外科	1,600	補助 文部科学省
動脈硬化病変進行・大動脈瘤増大のメカニズムと歯周病疾患の関与	塩野 則次	心臓血管外科	1,700	補助 文部科学省
多階層データに基づく心臓電気現象の総合的機能シミュレーション	池田 隆徳	循環器内科	200	補助 文部科学省
医学と工学の連携による電気生理学的心臓突然死予知手法の開発	池田 隆徳	循環器内科	1,300	補助 文部科学省
虚血性疾患における心電図同期SPECT(QGS)検査に関する国内臨床データベース作成の為の調査研究(J-Access)	山崎 純一	循環器内科	95	委託 循環器病研究振興財団
慢性炎症性疾患の再生医学	山崎 純一	循環器内科	200	委託 文部科学省私学事業団

計 34

- (注) 1 国、地方共同団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Asian J Neurosurg 7(2):61-65	The study of systemic general circulation disturbance during the initia of therapeutic hypothermia: Pit fall of hypothermia	本多 満	救命救急センター
Neuro Med Chir(Tokyo)52(7):488-94, 2012	Early cerebral circulatory disturbance in patients suffering subarachnohemorrhage prior to the delayed cerebral vasospasm stage: xenon computed tomography and perfusion computed tomography study.	本多 満	救命救急センター
神経外傷 35 (1 ):48-52. 2012	開頭被膜切除術を要した超高齢者(105歳)難治性慢性硬膜下血腫の1例	福島 大輔	脳神経外科
神経外傷 35 (1 ):63-67. 2012	被膜を伴った慢性硬膜外血腫の1例	羽賀 大輔	脳神経外科
Asian Journal of Neurosurgery 7(2):61-65. 2012	The study of systemic general circulation disturbance during the intiation of therapeutic hypothermia.	本多 満	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica(Tokyo)52(7):488-494. 2012	Early Cerebral Circulatory Disturbance in Patients Suffering Subarachnoid Hemorrhage Prior to the Delayed Cerebral Vasospasm Stage	本多 満	脳神経外科
日本シミュレーション外科学会誌20(9):13. 2012	結合した越側頭骨錐体のアプローチ用顔面神経の神経生理学の手術時のモニタリングの有用性	原田 直幸	脳神経外科
東京産科婦人科学科会誌 61(3):463-466. 2012	胎児超音波検査で出生前診断した先天性横隔膜ヘルニアの1例	上山 怜	新生児科
産婦人科の実際61巻12号 2021-2026	経胎盤的治療が著効した胎児不整脈の1例	大路 斐子	新生児科
図解でどんどんステップアップ 新生児循環管理 なるほどQ&A ネオネイタルケア 12年春期増刊	先天性心疾患を疑うのはどんな時?	与田 仁志	新生児科
図解でどんどんステップアップ 新生児循環管理 なるほどQ&A ネオネイタルケア 12年春期増刊	ダウン症や18トリソミーや合併することが多い心疾患は何?	与田 仁志	新生児科
図解でどんどんステップアップ 新生児循環管理 なるほどQ&A ネオネイタルケア 12年春期増刊	出生後や肺高血圧が続くとどうなる?	与田 仁志	新生児科
図解でどんどんステップアップ 新生児循環管理 なるほどQ&A ネオネイタルケア 12年春期増刊	循環管理でよく出会う薬剤一覧	与田 仁志	新生児科
日本未熟児新生児誌24:39-42:2012	ハイリスク児の急性期循環管理	与田 仁志	新生児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
周産期学シンポジウム誌30:75-76, 2012(8)	「長期予後からみた出生前診断症例における周産期管理の再評価」シンポジウムのまとめ	与田 仁志	新生児科
小児科:53:924-932-2012(7)	新生児の心不全-子どもへの負担を少なくするための画像診断の進め方-	与田 仁志	新生児科
周産期医学42:1269:-1276-2012(10)	先天性心疾患の周産期管理アップデート「胎児先天性心疾患の専門的診断」心エコー検査	与田 仁志	新生児科
小児科学レクチャー3:181-188-2013(1)	これだけは知っておきたい新生児医療Q&A「総肺静脈還流異常(TAPVR)」	与田 仁志	新生児科
循環器病の診断と治療に関するガイドライン 2013/01:273-301	小児心疾患における薬物療法ガイドライン「新生児・未熟児の心血管薬物療法」	与田 仁志	新生児科
メディカ出版 2012 4 大阪	図解でどンドンステップアップ 新生児循環管理	与田 仁志	新生児科
医学書院 2013(3)161-191 東京	新生児集中ケアハンドブック循環器疾患の管理	与田 仁志	新生児科
日本周産期・新生児医学会教育・研修委員会編集 医学社270-274:2012(7) 東京	ショック(症例から学ぶ周産期診療ワークブック)	与田 仁志	新生児科
日本周産期・新生児医学会教育・研修委員会編集 医学社257-265:2012(7) 東京	先天性心疾患(症例から学ぶ周産期ワークブック)	与田 仁志	新生児科
Int J Food Sci Nutr	Effects of a soybean nutrition bar on the postprandial blood glucose and lipid levels in patients with diabetes mellitus	瓜田 純久	総合診療科
Clinical and functional Nuturiology	The developmental integration between phytotherapy and Oriental medicine	田中 耕一郎	東洋医学科
漢方研究 494:8-11.2013	膿瘍形成を伴う難治性乳腺炎に加味逍散, 腸癰湯が奏効した症例	田中 耕一郎	東洋医学科
漢方の臨床 巻:60号:3ページ:485-494	精神的ストレスによる冷感に対し四逆散と抑肝散加陳皮半夏合補中益気湯が有効であった各一例	田中 耕一郎	東洋医学科
Journal of spine research 3(8), 1184-1187	Tubular retractor TLIFとmini-open TLIFの比較	和田 明人	整形外科
アレルギーの臨床32(11); 48-53, 2012. 10	職業性接触皮膚炎	関東 裕美	皮膚科
皮膚病診療:35(3); 299-302, 2013. 3	ダラシンTローションによる接触皮膚炎	陳 怡如	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 122(13):3139-3141, 2012. 12	四肢にみられる色素異常症	石河 晃	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 122(13):3121-3125, 2012. 12	化粧品による接触性皮膚炎:診断と治療	関東 裕美	皮膚科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mon Book Derma 号:200:29-36, 2013.1	職業性接触皮膚炎に対するパッチテスト-知っておかなくてはならないアレルゲン(各職業に特異的なアレルゲン)、検査の進め方や生活指導の実際-	関東 裕美	皮膚科
Almedia 16(4), 2012.12	表皮と真皮の摂食障害-水疱を来す疾患-	石河 晃	皮膚科
Mebio	高齢者糖尿病患者における経口糖尿病薬療法	安藤 恭代	糖尿病・代謝・内分泌科
Medicina	超速効型あるいは混合型3回注射法によるインスリン導入	弘世 貴久	糖尿病・代謝・内分泌科
ホルモンと臨床	バセドウ病と妊娠・分娩	坪井 久美子	糖尿病・代謝・内分泌科
順天堂医学	患者をその気にさせる糖尿病治療のテクニック	弘世 貴久	糖尿病・代謝・内分泌科
新薬と臨床	糖尿病患者の食事療法と服薬回数に関する意識調査-1日3回食事ごとに服薬する意義について-	弘世 貴久	糖尿病・代謝・内分泌科
日本臨床牀 最新臨床糖尿病学(上)-糖尿病学の最新動向-	インスリンと経口血糖降下薬の併用療法の実際	弘世 貴久	糖尿病・代謝・内分泌科
日本臨床牀 最新臨床糖尿病学(上)-糖尿病学の最新動向-	インスリン療法概論-適応・使用法の実際・注意点-	弘世 貴久	糖尿病・代謝・内分泌科
Biochem Biophys Res Commun	Thyroglobulin (Tg) activates MAPK pathway to induce thyroid cell growth in the absence of TSH, insulin and serum	須江 麻里子	糖尿病・代謝・内分泌科
Diabetes Res Clin Pract	Attempted suicide with liraglutide overdose did not induce hypoglycemia	弘世 貴久	糖尿病・代謝・内分泌科
Mol Endocrinol	Identificathion of microRNAs that mediate tyroid cell growth induced by TSH	須江 麻里子	糖尿病・代謝・内分泌科
Thyroid:official journal of the American Thyroid Association	Propylthiouracil increases sodium/iodide symporter gene expression and iodide uptake in rat thyroide cells in the absence of TSH	須江 麻里子	糖尿病・代謝・内分泌科
Thyroid:official journal of the American Thyroid Association	Regulation of dual oxidase(DUOX) expression and H2O2 production by thyroglobulin	吉原 彩	糖尿病・代謝・内分泌科
Repirology	The Japan NAC clinical study group: Efficacy of inhaled N-acetylcysteine monotherapy in patients with early stage idiopathic pulmonary fibrosis.	本間 栄	呼吸器内科
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	日本人の閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群患者における血清B型ナトリウム利尿ペプチド測定の有用性に関する検討.	高井 雄二郎	呼吸器内科
日本呼吸器学会誌	気腫合併特発性肺線維症の臨床病理学的特徴	伊藤 貴文	呼吸器内科
日本呼吸器学会誌	肝転移を契機に診断された線維形成型悪性胸膜中皮腫の1例	太田 宏樹	呼吸器内科
Sleep and Biological Rhythms	Cephalometric assessment of craniofacial morphology in Japanese male patients with obstructive sleep apnea-hypopnea syndrome	高井 雄二郎	呼吸器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肺癌	上皮成長因子受容体 (EGFR) 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者における耐性獲得時のT790M変異検索の有用性	磯部 和順	呼吸器内科
Anticancer Res	Clinical significance of circulating tumor cells and free DNA in non-small cell lung cancer	磯部 和順	呼吸器内科
CardioVasc Intervent Radiol DOI	Everolimus-induced pneumonitis after drug-eluting stent implantation: a case report	坂本 晋	呼吸器内科
Asia-Pac J Clin Oncol	Pathological response and prognosis of stage III non-small cell lung cancer patients treated with induction chemoradiation.	磯部 和順	呼吸器内科
肺癌	pulmonary tumor thrombotic microangiopathy (PTTM)を合併した肺扁平上皮癌の1剖検例	仲村 泰彦	呼吸器内科
Intern Med	Acquired hemophilia A associated with IgG4-related lung disease in a patient with autoimmune pancreatitis	杉野 圭史	呼吸器内科
Therapeutic Research	EM, CAMの長期投与が無効であった難治性DPBのVATS例	佐野 剛	呼吸器内科
Medical Technology	卵巣機能の新指標「抗ミューラー管ホルモン」	宗 晶子	産婦人科
東京都医師会雑誌	卵巣機能と加齢	森田 峰人	産婦人科
日本婦人科腫瘍学会雑誌	妊娠初期に円錐切除術を行い正期産分娩に至った子宮頸部絨毛腺管状乳頭腺癌の1例	間崎 和夫	産婦人科
日本産科婦人科内視鏡学会雑誌	大量腹腔内出血を認めた異所性妊娠に対して回収式自己血輸血装置により腹腔鏡下手術が可能であった2症例	土屋 雄彦	産婦人科
産婦人科の実際	当院における妊婦健康診査未受診分娩例の検討	松江 陽一	産婦人科
産婦人科の実際	経胎盤的治療が著効した胎児不整脈の1例	大路 斐子	産婦人科
日本歯科評論	周術期における口腔機能管理の意義と実際—東邦大学医療センター大森病院	落合 亮一	麻酔科
セラピューティック・リサーチ	脳波伝播時間を用いた心拍出量計測における駆出前期時間の寄与について	落合 亮一	麻酔科
ICUとCCU (集中治療医学)	人工呼吸管理	落合 亮一	麻酔科
クリニカル エンジニアリング	ARDSへの新たなアプローチベルリン定義とは何か?そしてその意義は?	落合 亮一	麻酔科
呼吸器・循環器急性期ケア	酸塩基平衡の基礎知識	佐藤 暢一	麻酔科
日本頭痛学会誌	片頭痛の非薬物療法 認知行動療法やバイオフィードバック	端詰 勝敬	心療内科
医学のあゆみ	頭痛の心身医学的アプローチ	端詰 勝敬	心療内科



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
腎移植症例集2012	Basiliximab併用症例における移植後糖尿病	服部 吉成	腎センター
臨床に直結する 腎疾患治療のエビデンス 第2版	腎移植 腎移植後の感染管理	河村 毅	腎センター
日本小児腎臓病学会雑誌	小児腎移植におけるカルシウム・リン及び副甲状腺機能の検討 PECTの問題点はあるか	長谷川 慶	腎センター
日本小児腎不全学会雑誌	移植時年齢及び移植前PD期間と移植後成長についての検討	村松 真樹	腎センター
腹膜透析2012	PD HD併用療法における透析量解析から得られる透析休息の位置付けについて	酒井 謙	腎センター
形成外科	【研修医・外科系医師が知っておくべき形成外科の基本 知識と手技】 新鮮外傷・熱傷治療の理論と実際 1. 創の基本的な取り扱い方	大西 清	形成外科
創傷	【単純縫縮 vs 局所皮弁・Z形成術】 Unit原理に基づいた小範囲顔面皮膚・軟部組織欠損の再建	荻野 晶弘	形成外科
日形会誌	【手指再建の局所皮弁：適応と私の工夫】 Step V-Y advancement flapによる指腹部再建	荻野 晶弘	形成外科
日下肢救済足病会誌	重症下肢虚血に対する当院の治療戦略：循環器内科、形成外科を中心とした取り組み	山田 哲郎	形成外科
薬理と治療	骨欠損を伴う感染性頭部皮膚難治性潰瘍でのメロペネム水和物混入 リン酸カルシウム骨ペーストの使用経験	山田 哲郎	形成外科
総説論文	周術期における口腔機能管理の意義と実際 2	関谷 秀樹	口腔外科
総説論文	周術期における口腔機能管理の意義と実際 3	堀江 彰久	口腔外科
日本門脈圧亢進症学会雑誌 18:14-18. 2012	門脈圧亢進症の血行動態診断におけるParametric Imagingの有用性について	永井 英成	消化器内科
脾胃 27(1), 45-53, 2012	複数本の十二指腸ステント留置が有効であった膵癌十二指腸閉塞の1例	伊藤 謙	消化器内科
Diagn Ther Endosc. 2012 ; 680963.	Efficacy of the new double-layer stent for unresectable distal malignant biliary obstruction: a single-center retrospective study	伊藤 謙	消化器内科
J Ultrasound Med. 2012 Mar ; 31(3):373-82	Usefulness of arrival time parametric imaging in evaluating the degree of liver disease progression in chronic hepatitis C infection.	和久井 紀貴	消化器内科
J Med Ultrason 40:73-76. 2012	Hepatic parenchymal hemodynamics of cholangitis with portal trunk thrombus using contrast-enhanced ultrasonography with Sonazoid: delineation of so-called central and peripheral zonal differentiation by arrival-time parametric imaging	塩澤 一恵	消化器内科
Journal of Microwave Surgery Vol. 30 (2012) (151-155)	肝細胞癌破裂に対して肝動脈塞栓術後に施行した腹腔鏡下肝切除術	土屋 勝	消化器外科
Journal of Microwave Surgery Vol. 30 (2012) (139-143)	EnSealを用いた腹腔鏡下肝切除術	大塚 由一郎	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
手術(0037-4423)767-771. 2012	【内視鏡外科医のための微細局所解剖アトラス】 肝胆膵 完全腹腔鏡下肝右葉切除での肝門脈管処理 個別処理とGlisson一括処理のコツ	大塚 由一郎	消化器外科
消化器外科ナーシング 消化器疾患看護の専門性を追求する 第17巻6号(2012年)(607-610)	【コマ送り写真&イラストで手術の流れが見える 術式まるわかりノート 術後ケアのポイントつき】(2章)術式別解説 腹腔鏡下肝左葉切除術	久保田 喜久	消化器外科
消化器外科(0387-2645)449-455. 2012	【名手が勤めるエネルギーデバイスの使い方とコツ】 腹腔鏡下肝臓手術におけるエネルギーデバイスの使い方とコツ	金子 弘真	消化器外科
肝胆膵画像(1882-5087)205-211. 2012	【肝臓-治療計画・支援のための画像診断】各論 肝細胞癌の術前画像診断 腹腔鏡下肝切除のための術前画像診断	久保田 喜久	消化器外科
手術(0037-4423)415-420. 2012	【こだわりのデバイス】腹腔鏡下肝切除術におけるこだわりのデバイス：マイクロ波凝固装置, バイポーラ凝固装置, CUSAおよび腹腔鏡用離鉗子, 自動縫合器, 生理食塩水滴下型モノポーラ凝固装置	片桐 敏雄	消化器外科
消化器外科学レビュー2012巻187-193	肝胆膵脾の内視鏡手術	大塚 由一郎	消化器外科
癌と化学療法(0385-0684)351-356. 2012	膵癌に対する腹腔鏡下手術の現況	田村 晃	消化器外科
Annual Review消化器2012巻292-298	腹腔鏡下肝下切除術における現況と課題	久保田 喜久	消化器外科
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2012 Sep 22	Gas embolism in laparoscopic hepatectomy: what is the optimal pneumoperitoneal pressure for laparoscopic major hepatectomy?	大塚 由一郎	消化器外科
Case Rep Gastroenterol	Gastrointestinal Stromal Tumor Mimicking Arteriovenous Malformation of the Jejunum	塩澤 一恵	臨床生理機能
Hepatogastroenterology	Diagnosis of Hepatic Hemangioma by Parametric Imaging Using Sonazoid-Enhanced US	和久井 紀貴	臨床生理機能
Japanese journal of medical ultrasonics	膵・胆管合流異常を伴った重複胆管に併発した胆嚢過形成粘膜の1例	渡邊 学	臨床生理機能
Japanese journal of medical ultrasonics	空腸虚血を来たした孤立性上腸間膜動脈解離の1例	渡邊 学	臨床生理機能
Japanese journal of medical ultrasonics	腹膜炎の1例	渡邊 学	臨床生理機能
Japanese journal of medical ultrasonics	肝細胞癌ラジオ波焼灼療法の焼灼範囲と Sonazoid 造影超音波後血管相 (Kupffer phase) における micro bubble 崩壊距離との関係	高橋 政義	臨床生理機能
日呼ケアリハ学誌	日本人の閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者における血清B型ナトリウム利尿ペプチド測定の有用性に関する検討	高井 雄二郎	臨床生理機能
Sleep and Biological Rhythms	Cephalometric assessment of craniofacial morphology in Japanese male patients with obstructive sleep apnea-hypopnea syndrome	高井 雄二郎	臨床生理機能
Cholesteatoma and Ear Surgery	Endoscopic Ear Surgery and its Various Options	枝松 秀雄	耳鼻咽喉科
咽喉	甲状腺骨形成術後に音声改善が認められなかった症例の検討	松島 康二	耳鼻咽喉科
Otology Japan	若手耳鼻科医がアブミ骨手術をできるようになるまでに必要なトレーニング	枝松 秀雄	耳鼻咽喉科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
冠疾患誌 2012; 18: 50-57	後世に継承したい安全な CABG への努力: CABG を PCI よりも低侵襲にするために	藤井 毅郎	心臓血管外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2012 Jun;60(6):355-8	Bidirectional Glenn procedure for an infected modified Blalock-Taussig shunt	佐々木 雄毅	心臓血管外科
JCM doi:10.1128/JCM.02221-12.2012	Development of a Peptide Nucleic Acid Probe to Trichosporon Species and Identification of Trichosporonosis using In Situ Hybridization in Formalin-Fixed and Paraffin-embedded (FFPE) Sections.	篠崎 稔	病理診断科
Med. Mycol. J. Vol. 53, 241-5, 2012	Development and Evaluation of Nucleic Acid-Based Techniques for an Auxiliary Diagnosis of Invasive Fungal Infections in Formalin-Fixed and Paraffin-Embedded (FFPE) Tissues	篠崎 稔	病理診断科
Jpn J Infect Dis. 2013 ; 66(2):133-9.	Histopathological evaluation of the efficacy of antifungals for experimental trichosporon bloodstream infection	笹井 大督	病理診断科
Methods Mol Biol. 2013;968:141-7	Applied Gene Histopathology: Identification of Fusarium Species in FFPE Tissue Sections by In Situ Hybridization	大久保 陽一朗	病理診断科
Ann Thorac Surg	Recovery of lung perfusion after sleeve resection for tuberculous bronchial stenosis	高橋 祥司	呼吸器外科
J Bronchology Interv Pulmonol	Negative pressure pulmonary edema during tracheal dumon stent implantation	佐藤 史朋	呼吸器外科
Jpn J Clin Oncol	Ciliated muconodular papillary tumor of the peripheral lung	秦 美暢	呼吸器外科
J Thorac Dis	Simultaneous bilateral spontaneous pneumothorax with congenital pleuro-pleural communication	秦 美暢	呼吸器外科
Thoracic Cancer	Anterior mediastinal cystic seminoma	秦 美暢	呼吸器外科
Ann Thorac Surg	Video-assisted thoracoscopic surgery for ectopic middle mediastinal thymoma in a patient with myasthenia gravis	肥塚 智	呼吸器外科
J Thorac Dis	A case of chronic expanding hematoma resulting in fatal hemoptysis	秦 美暢	呼吸器外科
Interact Cardiovasc Thorac Surg	Haemothorax following bullectomy caused by a sharp edge of the Endoloop	大塚 創	呼吸器外科
Clin Res Cardiol 101:89-99, 2012	Prognostic utility of T-wave alternans in a real-world population of patients with left ventricular dysfunction: the PREVENT-SCD study	池田 隆徳	循環器内科
Circ Res 110:275-84, 2012	The role of fibroblasts in complex fractionated electrograms during persistent/permanent atrial fibrillation: implications for electrogram-based catheter ablation	池田 隆徳	循環器内科
Int Heart J 53:113-6. 2012	Selective site pacin from the right ventricular mid-septum: Follow up of lead performance and procedure technique	池田 隆徳	循環器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Am Coll Cardiol. 2012 Apr 24 ; 59(17):1572-3	Microvolt T-wave alternans testing has a role in arrhythmia risk stratification	池田 隆徳	循環器内科
Ann Noninvasive Electrocardiol 17:260-267. 2012	Risk stratification for serious arrhythmic events using nonsustained ventricular tachycardia and heart rate turbulence detected by 24-hour Holter electrocardiograms in patients with left ventricular dysfunction.	池田 隆徳	循環器内科
Heart Rhythm 9:1033-7. 2012	Various patterns of intracardiac electrogram T-wave alternans prior to ventricular tachyarrhythmias in implantable cardioverter defibrillator patients.	池田 隆徳	循環器内科
Heart Rhythm 9:1256-64. 2012	Clinical Utility of Microvolt T-wave Alternans Testing In Identifying Patients at High or Low Risk of Sudden Cardiac Death	池田 隆徳	循環器内科
Cardiovasc Interv Ther 27(3):214-217. 2012	Transcatheter atrial septal defect closure in a patient with paradoxical brain emboli : who should treat it and who should be treated?	原 文彦	循環器内科
Journal of Arrhythmia 28(5), 307-309, 2012	Irregular wide QRS complex tachycardia without structural heart disease	小林 建三郎	循環器内科
Reseach Reports in Clinical Cardiology 4:9-12. 2013	Coronary arterial complications after percutaneous coronary intervention in Behcet's disease.	木下 利雄	循環器内科

計134

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発およびの医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	総務課 次長 春木 信一
管理担当者氏名	医療情報管理センター 次長 吉野 彰・総務課 早川 英克

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療情報管理センター  病院日誌は総務課	ターミナルデジット方式にて分類
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	診療科及び総務課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	診療科及び総務課	
	高度の医療の研修の実績	診療科及び総務課	
	閲覧実績	医療情報管理センター	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部及び医事課	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号の状況及び第九條の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	総務課及び医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課及び医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課及び感染管理部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染管理部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部及び中央放射線部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部及び中央放射線部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部 総務課 次長 春木 信一
閲覧担当者氏名	事務部 総務課 早川 英克
閲覧の求めに応じる場所	個人情報管理室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	53.5%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	19,665人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,033人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	4,208人	
	D: 初診の患者の数	59,443人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	○有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 総則 ①趣旨 ②安全管理に関する基本的方針</li><li>2. 組織および体制 ①医療安全管理部の設置 ②安全管理対策委員会の設置 ③医療安全を推進するための組織および体制</li><li>3. 報告等に基づく医療に係る安全確保を目的とした改善方策 ①報告とその目的 ②報告に基づく情報収集 ③報告内容の検討等</li><li>4. 職員研修 ①職員に対する教育研修 ②医療安全情報の共有 ③医療安全管理マニュアルの作成・更新</li><li>5. 医療事故への具体的対応・対策 ①医療安全に関する組織的取り組み ②機能する医療事故防止対策 ③適切な医療事故への対応</li><li>6. 医療従事者間と患者との間の情報共有</li><li>7. 患者等からの苦情・相談への対応</li><li>8. 本指針の見直し</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) インシデント及びアクシデントの実態の把握と、その背景要因の分析と評価</li><li>2) 医療の質と安全を確保するための具体策の策定と実施</li><li>3) 医療の質と安全を確保するためのマニュアル作成と励行</li><li>4) 医療の質と安全を確保するための知識の向上を図るための院内研修の実施</li><li>5) 他の病院における医療事故情報の収集とその要約の院内広報</li><li>6) 医療安全マニュアルの定期的な点検の実施と改善、及び検証</li><li>7) 医薬品の安全使用に関する管理</li><li>8) 医療機器の安全使用に関する管理</li><li>9) 相談・苦情内容の実態把握および分析と評価</li></ol>	



③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 1 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 第 1 回 医療安全全体研修 (5/28～5/29 : 1,796名)</li> <li>2) 第 1 回 未受講者研修 (7/24、30、31、8/8、9、10 : 357名)</li> <li>3) 第 1 回 医療安全研究会 (9/20 : 19名)</li> <li>4) 第 2 回 医療安全研究会 (9/25 : 67名)</li> <li>5) 第 2 回 医療安全全体研修 (11/5～11/6 : 1,791名)</li> <li>6) 第 2 回 未受講者研修 (1/7、8、9、10、11、17、18 : 409名)</li> <li>7) 第 3 回 医療安全研究会 (1/29 : 66名)</li> <li>8) 未受講者対象追加研修 (11名)</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ○有・無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 各ワーキンググループ活動状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インスリン値WG (活動中) <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 持参インスリンの指示を患者別ワークシートから注射指示書へ運用変更</li> <li>⇒ スライディング指示の院内統一スケールを作成し運用開始</li> </ul> </li> <li>・ 持参薬WG (活動中)</li> <li>・ DVT予防プロジェクト (活動中)</li> <li>・ AED基準WG (活動中)</li> <li>・ 検体 WG (活動中)</li> <li>・ MRI WG (活動中)</li> <li>・ せん妄および鎮静 (活動中)</li> </ul> </li> <li>2) 医療安全マニュアル (全項目の見直しを実施)</li> <li>3) 傷害事案と立てこもり事案シミュレーション実施</li> </ul> </li> </ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	○有 (2名) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有 (7名) ・無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	○有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任（２）名、兼任（１０）名、専従（４）名、顧問（２）名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安全管理対策委員会・セイフティーマネジャー会議・部内会議の資料及び議事録の作成及び保存、その他会議の庶務に関する事</li> <li>2) 医療の質の向上に関する事</li> <li>3) 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関する事</li> <li>4) 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導に関する事</li> <li>5) 医療安全に係わる連絡調整に関する事</li> <li>6) 患者等からの苦情、相談に関する事</li> <li>7) 院内巡視</li> <li>8) 安全管理研修会の企画及び準備</li> <li>9) その他医療安全対策の推進に関する事</li> </ol> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	○有・無

(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>骨子「院内感染より患者及び医療従事者の身を守るために、手指衛生及び感染予防策を徹底させる」</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1、感染対策に関する基本的考え方</li><li>2、感染対策のための委員会</li><li>3、感染対策のための従事者に対する研修に関する基本指針</li><li>4、感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5、感染症発生時の対応に関する基本方針</li><li>6、他病院との連携に関する基本方針</li><li>7、患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>8、その他の感染対策の推進のために必要な指針</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：毎月1回定例として委員会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 厚労省・東京都等からの通達</li><li>・ 感染症報告書の集計報告</li><li>・ 主要菌サーベイランス報告</li><li>・ 抗菌薬使用状況、耐性菌発生件数報告</li><li>・ ICTラウンド結果報告</li><li>・ 耐性菌警告書発行報告</li><li>・ マニュアル改定・作成報告</li><li>・ 研修報告</li><li>・ 感染防止対策加算における連携に関する活動報告</li></ul> <p>等を行い、院内感染上問題となる状況やその徴候について審議。また、衛生委員会、医療安全管理部と連携し、感染対策の推進を図っている。</p>	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年27回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1、全職員対象とした全体研修を年2回実施  1回目「院内感染対策の現状 -MRSA感染症の制御を中心に-」2回目「インフルエンザの基礎知識」 追加で未受講者に対する研修実施</p> <p>2、全職種対象としたセミナーを年2回実施  1回目「周術期感染対策」2回目「MRSA感染対策を考える～どうしたら良くなる?～」</p> <p>3、新規採用者に対する研修の実施  医師、研修医、看護師対象に院内感染の基礎知識等</p> <p>4、各職種にあわせた研修の実施  医師・研修医：①抗菌薬の基本知識とTDM・届出②結核画像の読み方③耐性菌の基礎知識  看護師：①感染基礎研修（微生物検査の提出と解釈、耐性菌の基礎知識、PPE着用方法、洗浄・消毒・滅菌）②尿留置カテーテル管理③血管留置カテーテル管理  その他：臨床工学士、理学・作業・言語療法士、ヘルパー、クラーク、清掃員業務士、ボランティア、医事課事務員</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検査部における各種耐性菌の早期発見</li> <li>・ 電子カルテを利用した感染情報の共有</li> <li>・ 臨床現場における感染予防策の徹底と耐性菌警告書の発行</li> <li>・ 各種サーベイランスの実施</li> <li>・ 病棟・外来・その他施設の環境ラウンド及び血液培養、耐性菌検出患者のラウンドの実施</li> <li>・ 抗菌薬適正使用の教育・推進活動</li> <li>・ マニュアルの見直しと改訂</li> <li>・ ニュースレターの発行</li> </ul>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	① 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 11 回
・ 研修の主な内容： ・ 医薬品の有効性・安全性に関する情報 ・ 使用方法に関する事項 ・ 業務手順書に関する事項 ・ 副作用が発生した場合の対応に関する情報	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( 有・無 ) ・ 業務の主な内容： ・ 医薬品の業務手順書の作成・医薬品の安全使用のための研修 ・ 業務手順書に基づく実施状況の確認・記録 ・ 改善のための方策の実施	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) PMDAおよび製薬企業からの医薬品安全情報を速やかに伝達(お知らせの配布・院内ネット(メール配信)の利用・会議報告)。 2) 個別対応が必要な場合は、処方科・医師を調査・特定し、個別に情報を伝達している。(リチウム錠、ランマーク注、ケアラム錠、テラビック錠の適正使用など) 3) セーフティマネージャー会議等を通じて報告内容を全職員に閲覧し周知を図っている。 4) 院内副作用報告は医薬品情報室で一元化。薬事委員会で報告後職員にも情報を発信している(10件)。 以上の情報は院内ネットで職員は全て随時入手できる体制となっている。	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 111 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：</li><li>・ 除細動器の院内配置と使用時の留意点について講義</li><li>・ 人工呼吸器の操作、注意事項についての講義および実技指導</li><li>・ 放射線治療装置の操作、注意事項についての講義</li><li>・ 閉鎖式保育器の操作、注意事項についての講義および実技指導</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( ☑・無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 外部委託（メーカー）定期保守：人工呼吸器、放射線治療装置、血液浄化装置、閉鎖式保育器</li><li>・ 院内実施定期保守：除細動器、人工心肺装置、血液浄化装置、輸液・シリンジポンプ</li></ul></li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ☑・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>① 院内医用テレメーターアンテナ設備の受信整備</li><li>② 手動式肺人工蘇生の不適切な組み立てによる事故防止目的でディスプレイ製品導入</li></ul></li></ul>	